

# 息の長い支援で 学童保育の幹を太く

池谷 潤

全国学童保育連絡協議会 事務局長

東日本大震災のあの大きな衝撃に身を震わせた日から三年がたちました。いまなお、四七都道府県に三〇万人に近い人々が避難・移転している状況が続いています。保護者と数日間も会うことができなかつた子どもや、大切な人と別れを経験し、大きな喪失感を抱いている子どもが大勢おり、ケアの遅れが指摘されています。かつての生活を取り戻せず、さまざまな困難のなかにいる保護者、そして学童保育指導員も被災している場合も多くあります。過酷な体験を胸に、保育を行っている方も少なくありません。

現在、働きながらの子育てをする保護者は全国的に増加してお

り、それにともなって学童保育の必要性がますます高まり、か所数も通う子どもの数も増えています。

被災した地域の自治体でも、子どもの命を守った学童保育の大切さ、その役割がより注目されるようになりました。

しかし、指導員の雇用環境をはじめ、学童保育の条件整備・改善は、未だ多くの困難をともなっています。この三年の間に雇用止めとなり、不本意ながらも現場から去らなければならなかった指導員も少なくありません。

このような状況のなかで、岩手県では、岩手県学童保育連絡協議会が、県内の被災した学童保育への保育支援を進めています。宮城

県では、宮城県学童保育緊急支援プロジェクトが学童保育のネットワークの形成に向けて指導員のつ

ながりを築き、全国各地の実践・取り組みにふれる機会を拡大し、体験したことをもとに「安全」や「ケア」に取り組みむ活動を進めています。そして福島県では、福島県学童保育連絡協議会が設立され、県内の学童保育関係者のつながりを深めています。

全国学童保育連絡協議会でも、こうした取り組みを支えてきました。被災した地域の関係者とのつながりを築いて連携を深め、現地の一人ひとりの指導員が手を携えて歩めるよう、それぞれの県で指導員研修の機会をつくり、心のケアや学童保育の生活への学びが

場を設けるなどの支援を行ってきています。

いま、被災した地域で必要とされているのは「安全に、安心して過ごせる毎日の暮らし」です。学童保育の担う「毎日の生活を支える」という役割はますます大きくなっていきます。この役割をしっかりと果たすために、「連絡協議会」の場で手を取りあうための努力が積み重ねられています。そして、これらの取り組みを支えているのは、全国各地の学童保育関係者の皆さんから寄せられた義援金（現在の名称は「東日本大震災学童保育募金」）です。被災した地域のさまざまな困難のなかで「子どもたちのために」よりよい学童保育

を「と、歩みをとめない仲間を支援するために、これまでご協力いただいた全国の学童保育関係者の皆さんのお気持ちに心より感謝を申し上げます。

三年間という歳月の流れは、少なくない人たちにとって、「過去の出来事」になってしまいうことのある時間であるのかもしれないが、震災からの復旧・復興の課題は、決して過去の出来事ではありません。これからも、息の長いご支援と、いつそこの募金へのご協力を、重ねてお願いいたします。

「東日本大震災学童保育募金」の振込先は下記のとおりです

- ・銀行コード：0005
- ・店番：351
- ・三菱東京UFJ銀行
- ・本郷支店
- ・普通預金 0012273
- ・名義 全国学童保育連絡協議会代表 木田保男